

## 報 告

## ソチ 2014 パラリンピック冬季競技大会報告

アルペンスキーコーチ 切久保 豊

今回のパラリンピックで我がアルペンチームは、高成績で終わる事が出来ました。ここに至るまでの経緯や大会期間中の事を書きたいと思います。私は長野オリンピック・パラリンピック後の1999年からこのアルペンチームのコーチとしてチームに携わってきました。2002年ソルトレイクパラリンピックの頃は今の現役選手はひとりもおりませんでした。現在の選手は、トリノパラリンピック以降にナショナルチームに在籍してきました。当時メダルを取った選手もいましたが安定した成績もなくチーム力も弱いチームでした。そこで8年前から故松井前監督と我々コーチは課題を作り、それをチーム全体に浸透させようと実行してきた結果が今回の成績につながったと思います。

我々指導者は、選手の強化と環境づくりを主に活動してきました。選手になるべく自由にトレーニングや合宿生活を送れるような環境づくりをしてきた結果、シーズンの早い時期に座位選手はマシン調整を終えて試合期に入る事ができ、立位選手はウェイトトレーニング、コンディショントレーニングなども個人の時間を有効に使用し個人能力も高めてきました。その結果、座位クラスからワールドチャンピオンを2年続けて輩出し、立位からも入賞者が出てくるようになりました。

実際ソチパラリンピック会場に入ってからチームはハードなスケジュールに追われましたが、各選手モチベーションを試合日に合わせて調整できたと思います。スピード系の種目(DH/SG)では、難易度の高いコースにも関わらず、日本チームはよりタイトなレースラインを攻め、技術系の種目(GS/SL)ではバーンコンディションが悪かったため、リズムやポジショ

ン重視に攻めることといった作戦をインスペクションで選手と立てました。実際のレースでは、途中棄権した選手やゴールした選手も次の日本チームの選手に向けてコースのコンディション(情報)を無線で知らせチーム全体の成績を上げることが出来ました。

メダルを取った各選手について、狩野選手は数年前から計画を立てソチに対応できるように技術・モチベーションを合わせてきました。鈴木選手は体力作り・マインドコントロールを高め、森井選手は本来の他選手より優れていた色々なバーンにあった適応能力、体力を更に高めてきました。今回のパラリンピックで私も男子スラローム1本目のセッティングをしましたが、健常者でも難易度の高い急なコース・悪条件のコースコンディション(通常の試合でも最低のレベル)の中で良い成績が出せたのは、技術はもちろん、チーム力の向上が世界で一番と言われる最強のチームになったと言う事が勝因だったと思います。それから、座位選手は自分のマシンの細かな調整方法をミリ単位で研究して雪質やバーンコンディションに対応できる事が出来るようになったのも勝因のひとつとも言えるでしょう。いくつか残念だったのは、常時ワールドカップで好成績が出ている種目でメダルのとれていなかったこと、上位が狙えた立位の選手がふるわなかったこと、と思います(あと二種目でメダルがあっても不思議ではなかった・・・)。今後、更なる技術の向上と女子選手や若い選手の確保が課題と思われれます。

最後に、今回のパラリンピックではメディアの方々にも多く取り上げて頂き、パラリンピックを一般の方々にも知ってもらう事が出来ました、御礼申し上げます。今後もアルペンチームが技術やチーム力をアップして、より強いチームに進化する事は可能だと信じております。

関係者皆様、末永くチーム、選手へのご支援、ご協力をお願いいたします。

切久保 豊

〒399-9301 長野県北安曇郡白馬村岩岳



写真1 スラロームで金を取った鈴木猛史選手



写真2 切久保セッティング風景



写真3 ゴールでの集合写真



写真4 解団式の集合写真